

関西詩人協会会報

第85号
2017.4.1

発行者 有馬 敬

詩話会のご案内

関西詩人協会も設立から23年を迎えました。設立に尽力された方々もだんだんと少なくなりました。詩の素晴らしさと詩を作る喜びの輪を広げて立ち上げ、関西詩人協会の基礎を作った方々の人となりや、作品についてお話をさせていただき、今後関西詩人協会のますますの発展につなげていけたらと思います。

開催日 7月17日(月曜日・祭日) 13時30分(受付13時) 終了16時30分頃
場所 大阪市立西区民センター

(詩画展の会場の2軒隣。詩画展の見学も兼ねてどうぞ)

費用 1人500円(コピー代)

出欠 締切6月10日同封のハガキで、会員以外の方もどうぞ

内容

- 1部 講演 関西詩人協会の設立に携わった方々と作品
 講師 原圭治氏(現関西詩人協会運営委員)
 内容 設立に尽力された方々(故人)について
 志賀英夫・島田陽子・杉山平一・高橋徹・福中都生子
 水口洋治の各氏
 朗読 上記の方々の作品の朗読
 朗読は——朗読文化の会「あい」の皆さん
- 2部 鼎談 設立当時の思い出 司会:大倉元
 左子真由美・瀬野とし・原圭治各氏

第26回「詩画展」

多彩な詩と コラボするアート

*展示期間 7月7日(金)～7月19日(水)

*場所 大阪市立中央図書館(地上一階) エントランスギャラリー
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2 TEL06-6539-3326(係へ直通)
地下鉄・千日前線または長堀鶴見緑地線「西長堀」駅下車7号出口すぐ

*展示作品

- ① 関西詩人協会会員の作品
- ② 詩と絵画 書 写真等の平面構成
- ③ 額装、パネル貼り等で縦横各90cm以内の規格で一人一点
(必ず題名をつける。必ず詩をつける)

*参加費用 500円

*搬入・搬出

搬入は7月6日(木)午後2時～3時(御自分で搬入できない方は7月6日午前必着で中央図書館利用サービス担当・野村由紀様宛に送ってください)
搬出は7月20日(木)午前10時～11時、各自で撤去(宅送希望の方は、受取人払いの宅送伝票を記入の上、参加費500円を作品に添えて送って下さい)

*搬入・搬出口が今回から変わります。職員通用門ではなくギャラリーの出口からとなりますのでご注意ください。

*参加申込み

同封ハガキで6月16日(金)必着でお願いします。

*その他展示

各自の近刊詩集、詩誌等を会場に陳列供覧。自由に持ち帰ってよいもの以外は、亡失の恐れもあるのでガラスケースの中に展示します。

*今回も詩画展の作品集を発行しますので搬入時に展示作品の写真撮影を行います。

詩はできるだけ短い作品にしてアートと一枚の中に納めて下さい。
 昨年作品集を参考に、額の中で少し離れても読める文字でお願いします。

*お問い合わせ

外村文象(とのむらぶんしょう)

〒569-1029 大阪府高槻市安岡寺町4-40-7 TEL・FAX072-688-0490

- ① 詩話会のご案内/第26回「詩画展」のご案内
- ② 文学散歩詳細のご案内/子引き孫引き/国民文化祭なら作品募集/ホームページだより/北原千代さんH氏賞受賞
- ③ 英訳五行詩
- ④ 英訳五行詩
- ⑤ 追悼・志賀英夫さん/会員が発行または編集する詩誌/新入会員の紹介/ご逝去/住所変更/「あい」の活動報告/運営委員会のもよう
- ⑥ 会員の活動/会員の発刊詩書/団体の会報・図書

文学散歩にご参加ください

詩人の「ふるさと探訪」

今回の詩人は京都府美山町知井出身の名古きよえさんの故郷、美山町です。茅葺きの家で、国の伝統的建造物保存地区に指定されています。またこの日は年に二度しかない一斉放水が見学できます

内容 茅葺の里の見学 一斉放水

(消防訓練を兼ねて)

開催日 5月20日(土) 雨天決行

集合場所 京都駅 南側 地図参照

集合時間 8時45分 厳守

出発 9時00分

費用 4500円 当日徴収

弁当 京風弁当とお茶(紙パック入り 足りない方は各自用意下さい)

交通 ヤサカ観光貸切バス 50人乗り

行程 京都駅出発9:00—周山街道經由—道の駅で休憩—美山着11:30—茅葺の家・美山散策と食事・朗読会13:30—一斉放水見学(約5分程度)—14:00美山出発—周山街道—道の駅で休憩 明智光秀の像がある慈眼寺拝観—京都駅着16:30頃着 解散

参加者 会員とのお知り合いの方 50人になり次第締め切り。(残席が少なくなっていますので急ぎ申し込んでください)

84号に同封した封筒で申し込んで戴きますが、見つかからない場合は事務局長に☎や葉書で結構です。 ※ケータイ電話をお持ちの方は、申込みの際教えてください

大倉090(7097) 6705
永井090(4289) 8225

J R 京都駅南側 (京都タワーの反対側) の集合場所。アバンティが見えます。遅刻もなくスムーズな出発が出来ますよう、よろしくお願ひします。



子引き孫引き
文章としてまとめる上では、近隣に同じ表現を繰り返さない。似ている単語の中から適切な言い換えを選ぶこと。例えば、区別と識別、認識と認知、的確と正確、哀れさと悲しさ、などの違いをはっきり意識すること。読み直していつて、句読点を明確に使うこと。文章としてリズムを整えていくことが肝要です。

大野晋 『日本語練習帳』より

(編集部)

国民文化祭募集要項決まる

本年、奈良県で開催の国民文化祭の現代詩部門の募集要項が決定しました。皆さん、関西で開催です。ぜひ応募してください。なお、本開催には関西詩人協会の奈良県在住の会員が多数実行委員を務めております。

開催場所 大和郡山市
開催日 11月25日(土)
募集内容 3つの部門があります。
「現代詩」 テーマは自由
「課題詩」 奈良県の地名、固有名詞等を読みこんだ詩
おもしろい「ちびっこのことば」
募集期間 4月10日～6月30日
詳細は同封のパンフレットを参照ください。

関西詩人協会会員

北原千代さんが第67回 H氏賞を受賞されました

受賞詩集『真珠川 Barroco』

※ 受賞式 6月18日 午後1時～
場所 東京都千代田区飯田橋 3-10-8
ホテルメトロポリタンエドモンド

ホームページだより

<http://kpapoem.web.fc2.com/>

- * 「JUNPA 設立5周年記念国際詩祭」大津(2月12日)/京都(2月14日)
- * 会員の詩(2月1日～4月30日)『関西詩人協会自選詩集』(第8集)より 猪谷美知子、根来真知子、北村 真さんの詩を掲載。
- * エッセイを随時募集しています。
- * 会員の活動チラシなどをお送りください。

(担当:松村信人)

英訳五行詩

84号に続いて昨年9月の詩話会で募りました五行詩を紹介いたします。翻訳は村田辰夫氏とすみくらまりこ氏です。

山ありがたし 岸本嘉名男
ちよっぴり白雪をちりばめて
眼前に金剛山がそびえ立つ
トロン温泉の湯につかり人はみな
愛着と敬意を表しながら
内省と抱負を語りかけるのだ

ずいぶんなヒト 木立零
「猫カフェ」につれて行ってほしい
時間の大幅変更を提案して
なのに(いろいろあつて中略)
「もう寝るから何時にするか
考えといて」だニヤンてやつ

終わりからの始まり 榎次郎
未来をみてきた僕を乗せた列車は
まもなく終着駅のホームに辿り着く
その反対側では過去へ戻る始発駅の扉が
おいでおいでと手招きしている 置き忘
れて
いた鞆を取り戻す旅立ちへ一目散に飛び
乗った

翻訳時気づいたこと
(1) 五行詩というお皿に盛りすぎた詩が見受けられました。英語に直すと字数が増えます。それをすっきりと五行に翻訳するため、いかに取り扱うかに腐心しました。

(2) 固有名詞(動植物名は翻訳に携わるものの宿命でしょうが)いつもながら苦労します。それを正確に知らしめるには学名、写真、脚注などを使う必要があるのか、さりと流しておけばいいのか、悩むところです。

ゆすらうめ 香山雅代

臘の
春の庭に
すつとあおいひかりがさしこんで
山梅桃の小花が
少女の化身がしるく咲き霽れる

Grateful mountains Kanao Kishimoto

The Mount Kongo rises before our eyes
With a little white snow on its hillsides
People in a hot spa of thoron
Speak to him with affection and respect
And with their reflection and aspiration

(コメント) --tion, を重ねて締めくくった。

希望 北口汀子

光りを孕んだ雲が
黄昏に呑まれた
言葉なき子等は
すでに星となり
明日の友を導く

A Cruel Voice

Rei Kodachi

“Take me to the Cat Café”
After changing a schedule, the voice said.
But then (adding some excuses)
“I’m going to sleep. Tell me when it’ll be better.”
The voice meowed like a cat

(コメント)「ずいぶんな」=ひどい(?)
ユーモラスに処理した。女性だろうが、「声」と、した。

Beginnings On the ending

Jiro Sakaki

My train bound for future prospect
Is arriving soon at the terminal
On the opposite platform, a door of the first train returning
Beckons me to ride it ---
I jumped into it to take back my left bag

(コメント) 最初の4行は「想念」、現在形で。最後の1行を「現実的」として過去形で。区別するため、一線を入れた。

モナルガ蝶 田島廣子

モナルガ蝶は
国境を越え
巣にもどらむ
森林に雨がふるごとく
羽ばたきて

Nanking Cherry Msayo Kayama

Suddenly
A blue light ray comes in
My dim spring garden
A small flower of Nanking cherry
blooms in white
And spills over like
The incarnation of a girl

(コメント) 花の名前の英語(?)

Hope Teiko Kitaguchi

Clouds suppress rays of the sun
Swallowed in evening darkness
Silent children
Appear as the stars already
To guide friends to tomorrow

(コメント)「言葉なき」く気持ちは分かるが、ムツカシイ(?)

Dreaming days Shota Sato

This morning, as usual
Holding a secret dream
I step out
To the far and far sky
Pushing it out to justify

(コメント) 夢の「正当化・正夢」とするよう justify (正当化) を入れ、sky と押韻させた

A Mariposa Monarca Hiroko Tajima

A butterfly Monarca
Passing over the border
of the country
To return its nest
With flapping sounds like
heavy rains
All over the trees on the
forest

(コメント) 「マカガ蝶」(?)

My common daily life
Akihide Nakao
 Tell me please
 Even if it were an ordinal day.
 Even if you say it's true
 My living now and today
 Should not be miracle, should it?

(コメント) 最後は「反語」。

お教え下さい
 例え一日でも当たり前
 もしあれば
 今生きていることが
 奇跡なのに

Misery Shouji Tamura
 After an aerial bombing in Syria
 A bloody and muddy face of a kid
 Was found dead among the debris.
 His father was IS member or army
 of the puppet of the Government?
 Still the fight continues

(コメント) bloody - muddy の dy 音。
 puppet of the government は傀儡政府。
 puppet は指人形、kid(子供) との対応ありとした。

悲惨 田村照視
 シリアの空爆の瓦礫から
 血だらけの顔に泥がこびりつき
 幼児は死んでいるのか動かない
 この子の父は IS か政府の軍人か
 それでもまだ殺し合うのか

A Snail
Kazumasa Namura
 A fig leaf
 Is his play ground
 After the rain
 The blue sky is gone
 Far away again

(コメント) 「にげてゆく」 (擬人化?) ⇒ is gone (退去)

雨あがりの
 いちじくの葉が
 運動場です
 青い空が また
 遠くへにげていきます

Only a word
Hiroyuki Teranishi
 Thank you so much or so sorry for it.
 Appreciation or confession to my wife -
 Even now I feel too embarrassed to
 say it afresh
 Much less under her pressure --
 Fighting between a word and a mind

(コメント) 「てれくさい」 ⇒ 「とまどう」
 (embarrassed) とした (shame, 恥ずかしい)
 ではどうも(?)。「感謝と悔悟」(appreciation,
 confession) 間の心境(?)

ひとことなのに 寺西宏之
 妻に言うありがとうとごめんなき
 たったひとこと感謝と懺悔
 今更言えぬてれくさい
 催促されたらなお言えぬ
 言葉と心の意地の張り合い

The Manner of flowers
Kiyoe Nako

When visiting in any
 countries
 I saw colorful flowers
 blooming
 Could we pass it only by
 observing their beauty?
 They are all showing alive
 Beyond human races,
 beyond human wars and
 dirt

(コメント) 「役目」 ⇒ 「あり方」(manner) とした(?)

花の役目 名古きよえ
 花はどこの国へ行っても
 色とりどりに咲いている
 美しいと見るだけでいいの
 人種を越え 戦争を越え
 このように活々と咲いている
 のにか

Sunset Masumi Nagai
 Two ranges of dim inky mountains
 showing up like a picture
 I am coming back somewhere
 through the landscape
 The birds also going back home
 over the scenery
 The sunset shakes hands in the
 mirror of my car
 Like a last parting in this world

(コメント) 「薄墨色」(?) コマル。
 「今生」、this life or this world (?) 風景を主にして、後者をとる。

夕焼け 永井ますみ
 薄墨色の山稜が二枚、絵のように浮いて
 いる
 二枚のどの辺りかへ私たちは帰っていく
 平べったい山を越えてあの鳥たちも帰っ
 ていく
 車のミラーに夕焼けが
 今生の名残のように手を振っている

The atmosphere Kei Fukuda
 I cannot see an atmosphere
 around me
 Fu-chan, my friend, next to me,
 suggests it to me
 By pinching my thigh, or by
 winking
 I sense the air has a pearl color
 And a silent being

(コメント) その場の空気の意で
 the atmosphere. 「空気」の語もある
 ので air も使った(終わりから2行目)

空気 福田ケイ
 空気を読めない私がいる
 隣の席で風ちゃん股をつねったり瞬きして知らせた
 空気って真珠色
 いとおしい沈黙の生きもの

A Station
Kei-ichiro Fujitani
 I cannot find any station at all to
 depart
 From my dead corner
 No station where my friend
 Stretch out to shake my hand.
 I am still in a captive land, looking
 for the station for departure

(コメント) 「囚われの街」ムツカシ。「駅」
 は「脱出の場所」(?) 情感は分かるが。

駅 藤谷恵一郎
 追い詰められて
 ここを飛び立つ駅がない
 手を差し伸べる
 友が降り立つ駅がない
 囚われの街に 駅を探し続けて

追悼 志賀英夫さん

原圭治

十二月三十日、志賀英夫さんが亡くなった。また一人、関西詩人協会の創立メンバーが居なくなつた。改めて気づいたのは志賀さんは一九八六年に『ボケツト帳から』という詩集を出しているが、以後一冊も詩集はない。ところが志賀さんの偉大なところは、戦後間もなく焼け跡から新聞ロール紙を見つけて、詩誌「草原」を創刊、翌年「柵」と改題、ずっと月刊詩誌を発行し続けてきたことである。とりわけ、『戦前の詩誌・半世紀の年譜』から『戦後詩誌の系譜』と補充版を刊行した偉業である。そこに収められた詩誌の数は、五千点を遥かにこえるもので、その収集の苦労は推察するに大変なものだったと思う。また、阪神淡路大震災の折に、いち早く会員の安否を尋ね、会報に掲載した事や『詩集・阪神淡路大震災』を三冊発行したこと、他に「柵詩集」として三冊発行した事など、余人ができるようなものではない仕事をし遂げたことである。私にとって、志賀さんの思い出は、日本詩人クラブの関西大会で一緒に関わらせてもらった事である。その会場に箕面の螢を持参して放つたことなど、志賀さんは奥様と二人三脚で、気遣いの行き届いた運営をされ、その人柄に敬愛の念を持ったものである。今は惜しい人を失つたという思いでいっぱいである。

《会員が発行または編集する詩誌》

KAIGA 104号	原口健次
イリヤ	尾崎まこと
個人誌 奇蹟 G~M	津坂治男
銀河詩手帖 281号	近藤摩耶
総合文芸誌 秋桜	志田静枝
こどもへの詩の花束	左子まゆみ
軸 122号	原圭治
詩人学校 797~799号	竹内正企
個人誌 春夏秋冬 No.14	西崎想
樹音 第72号	森ちちふく
新療原 第21号	小林尹夫
ターミナルVOL・11	奥村和子
	・神田さよ
野の花 第72・73号	三浦千賀子
ふーが 43号	竹内正企
ぼとり 45号	竹西良和
リビエール 150記念号・151	横田英子

新入会員の紹介



阪南太郎 (はんなん たらう)

う)大阪詩人会議の先輩方に加え『ステキな詩に会いたくて』(小学館)など、水内喜久雄さんの本で詩を拝読したことがある詩人の方々もおられる関西詩人協会への入会が承認され、光栄です。ペンで武器を無くせる日を信じ詩作を続けたいと思います。

〒599-0235 大阪府阪南市箱の浦399-11松田方



吉中桃子 (よしなかもこ) また詩を書くようになりました。二ヶ月に一作のペースです。日常に埋もれていた意識が、言葉によって掬いあがってきます。

つぎは何が釣れるのか?文字を書いていかないと見えません。それを他の人に味わっていただけるとはまた別のことですが。

〒630-8044 奈良市六条西3丁目2-17

《住所変更》

中島省吾氏 泉南市樽井8丁目市営前畑団地2-416

朗読文化の会「あい」予定

4月11日・5月9日・6月13日(いずれも第2火曜)、会場は新大阪・ココプラザにて午後2時から。

「あい」の活動報告

毎月第二火曜日に集まり、先ずは発声練習です。テキストをもとに、早口ことばや「外郎売の台詞」をみんなで唱和して、口慣らしをしてから、持参した自分の作品を朗読しています。

参加者は1月は11名、2月は10名3月は11名でした。(市原礼子)



運営委員会の模様

日時 2017年2月18日 13:30~17時
場所 エルおおさか 出席16名

- ① 入退会 2名を入会承認し、1名退会(逝去)で、現会員数283名となる。
- ② 会計 事業毎に目処となるおよその予算を確認し、これに基づき執行することとした。会計担当委員から、次回運営委員会に、会費未納状況のリストを提出してもらうとともに、会費未納促進の具体的方法についての提案を基に検討することとした。
- ③ 文学散歩「詩人の故郷を訪ねる」の第一回として、名古屋よえ会員の故郷「美山かやぶきの里」を訪ねる企画を具体化した(本会報別項を参照)。
- ④ 詩話会 7月17日(月・祝)、大阪西区民センターで開催。(本会報別項を参照)
- ⑤ 詩画展 7月7~19日、大阪市立中央図書館で開催。
- ⑥ 詩のイベント 9月9日に開催予定。企画検討中。
- ⑦ 2017年の総会は11月12日、大阪キヤッスルホテル(京阪天満橋)で開催。講演の講師を検討。
- ⑧ 役員選挙 選挙管理委員会のスケジュールを確認。規約と役員選出細則3項に基づき「選出対象者リスト」について検討。
- ⑨ 次期代表 役員選出細則7項「運営委員会が、本会の目的を達するにふさわしい者を選定し、定時総会に報告して承認を得る。」に基づき、検討している。
- ⑩ 香典 諸般の事情を考慮し、現五千元を一万円に増額した。

(文責・佐古祐二)



会員の活動

秋野かよ子氏・外村文象氏・「コールサック」89号に『関西詩人協会自選詩集第8集』書評掲載。中島(あたるしき)省吾氏・ジャーニーズ百科事典に掲載される。http://jpedia.web.fc2.com/jkansai80.html

上村多恵子氏・12月9日ザ・パレスサイドホテル美しい朗読で詩を聴く会で出版披露「Dewdrops (露の珠)」。12月7日京都清華大学JUNPA「ゼリナー詩と芸術」で講師を務める。

佐古祐二氏・2月25日 詩の実作講座で、「北村太郎」について話す。

佐相憲一氏・月刊誌「女性のひろば」詩案内連載が再延長で第30回まで担当。隔月で土曜詩の集まり企画運営。インターネットテレビ出演、隔月。

白川淑氏・平成28年12月20日『京都語文第24号』(佛教大学国語国文学会)に論文・川端康成『古都』論―エーリヒ・ケストナー『ふたりのロッテ』その類似―(本名廣島喜子)が採用・掲載された。永井ますみ氏・2月18日徳島ふれあい健康館で講演「瀬戸内海を通過して―万葉集から」詩脈70周年。

西崎想氏・3月1〜5日生野区コリアタウンの『ギヤラリー渡来』で、「NPO青空会議・平和企画美術展&平和の集い」を開催。2日に朗読会を持ち横田英子、永井ますみ、市原礼子各氏が朗読。安森ソノ子氏・1月22日、新京極・誓願寺にて「京ことばの会」に出演。1月27日から3日間、東京スカイツリータウン、地下3階にて「芸術文化みらい展」として詩作品が電光パネルで掲示される。

JUNPA設立5周年記念国際詩祭2・12(大津市伝統芸能会館) 13(イタリア文化会館・大阪)、14(ロームシアター京都) JUNPALジェンド賞受賞

有馬 敏、村田辰夫(創設期に貢献されたことを称える賞)朗読・村田辰夫、上村多恵子、すみくらまりこ、下田喜久美、武西良和、タニウチヒロシ、加納由将、北原千代各氏

現代京都詩話会朗読イベント「不条理に挑む京都詩人」12・10(ウォングス京都)を行った。司由衣、中西衛、安森ソノ子、森下和真、方草子、長岡紀子、井上良子、根来真知子、永井ますみ各氏

《今後の予定》
中尾彰秀主催《詩の教室》
4月9日14〜16時和歌山市NPOボランティアサロン『坂村真民自選詩集』
詩を朗読する詩人の会「風」南森町MAG15時〜
ゲストは4月16日美濃吉昭氏、5月21日志田静枝氏、6月18日風呂井まゆみ氏

詩の実作講座
4月22日(土)第22回午後6時〜9時
田中冬二の詩 講師 吉田定一氏
5月27日(土)第23回 午後6時〜9時
ボブ・ディランの詩 講師 寺沢京子氏
6月24日(土)第24回 午後6時〜9時
ヴェルレエヌの詩 講師 左子真由美氏

日本詩人クラブ鹿兒島大会2017 5月13日(土) 13・30〜ホテルパレスイン鹿兒島、会員1000円 一般1500円。詳しくは日本詩人クラブ鹿兒島大会実行委員会 099-210-7713

《募集》
第二回 永瀬清子現代詩賞 締切4月17日4百字
詰め原稿用紙2枚以内、題名、氏名、3行目より本文。欄外に連絡先住所、電話番号。問合わせ送り先。岡山市東区瀬戸町二丁目279-4 NPO法人長瀬清子生家保存会、事務局小林一郎086-953-1648

《会員の最新刊詩書》
有馬敏詩集『新編 ほら吹き将軍』(澤標)
北村真詩集『キハーダ』(ポートハウス)
岸本嘉名男自叙伝風『うた道をゆく』(土曜美術社出版販売)
志田静枝詩集『夢のあとさき』(竹林館)
斉藤明典詩集『歪んだ時計』(竹林館)
谷口謙詩集『雪』(土曜美術社出版販売)
近藤八重子手書き詩画集『風の風紋』

上村多恵子『朗読詩集アンソロジー』(日本国際詩人協会)
有馬敏共著 日英バイリンガル詩集「存の二重奏」(日本国際詩人協会)
すみくらまりこ共著「式の二重奏」(同右)
司由衣 共著「青の二重奏」(同右)
下田喜久美 共著「雪の二重奏」(同右)
後恵子『ネパールの生活と文化―教育支援(NGO)を始めて』(竹林館)
山田兼士評論『詩の翼』(響文社)
佐相憲一編『詩人のエッセイ集〜大切なもの〜』(コールサック社)

《団体の会報・図書》
GIFU詩人集第4号 岐阜県詩人会
OCCOS No.212 大阪文化団体連合会
石川県詩人会会報 43号
茨城県詩人会会報 No.23号
岩手県詩人クラブ会報 第91号
大分県詩人連盟会報 第16号
岡山県詩人協会会報 No.19
鹿兒島県詩集 第20号 鹿兒島県詩人協会
岐阜県詩人会会報 第8号
群馬詩人クラブ会報 No.299
静岡県詩集 第二十五集 静岡県詩人会
静岡県詩人 会報 129号
島根県詩人連合会報 No.81
島根県詩人連合 島根年刊詩集
詩集「詩よ家出をしなさい」高知詩の会
中日詩人会会報 No.188
中四国詩人会会報
鳥取県現代詩人協会 会報 第35号
長野県詩人協会 会報No.134
日本現代詩人会会報 No.145
兵庫県現代詩協会 会報40号
ひょうご現代詩集(創立20周年記念)兵庫県現代詩協会
福島県現代詩人会会報 第114号
宮城県詩人会会報 第24号
山形県詩人会会報 第31号

関西詩人協会会報 第85号 発行者 有馬 敏
次号原稿〆切り8月末日です
関西詩人協会事務局 0639-1056 奈良県大和郡山泉原町九一一大倉元方 TEL・Fax0743-52-0230
編集 永井ますみ 0651-1213 神戸市北区広陵町一〇二八石井方 TEL・Fax078-581-9582
編集担当者のメールアドレス DZM03624@nifty.com